

頭頸部がん患者と家族を支える看護サポートチームの役割について

－外来・病棟・専門チームの取り組み－

外来診療部（耳鼻咽喉科）

○小松 真貴 坂上 祐美子 小松 桂子 中川 敏子
田所 裕子 田中 左和子

4階西病棟

柴岡 三枝 時久 三紀子

4階東病棟

千谷 真由三

緩和ケアチーム

向田 好美 小笠原 麻紀 近藤 恵子

【はじめに】がん診療連携拠点病院である当院の耳鼻咽喉科では、頭頸部がんに対し、再建術や拡大手術を含む手術療法、放射線療法や化学療法との集学的治療を行っている。頭頸部領域は、生活を営む上で重要かつ審美的な機能をもつため、治療の選択には、病状や治癒率、機能障害等に加え、患者・家族の価値観や治療後の生活等を含めた検討が必要となる。従って、治療選択の意思決定や、機能障害と生活のマネジメントに関わる看護師の役割は大きい。また、喫煙や飲酒の嗜癖の問題が、家族関係や仕事・経済面に影響している事もあり、これらを専門的視点で評価・調整する役割も必要である。そこで、頭頸部がん患者・家族の支援に、看護師が継続・専門的に関わる事を目的に、外来・病棟・専門チーム看護師がサポートチーム（以下チーム）を立ち上げた。

【取り組み】チーム全体の活動は、1時間/月、患者・家族の状況をチーム看護師で共有し、また、30分/週、病棟カンファレンスにて、入院患者の看護や入院予定患者の看護を事前に検討したり、退院後の様子を共有している。チーム外来看護師は、診察時の様子を基に、患者・家族を全人的にアセスメントし、病棟・専門チーム看護師に相談しながら、診断期～終末期に至る外来通院患者の看護に取り組んでいる。チーム病棟看護師は、病棟の看護相談や連絡窓口の役割をもち、チーム内の看護師と協働し、治療を受ける患者と家族の看護や退院支援に取り組んでいる。専門チーム看護師は、専門的視点から、外来・病棟看護師と共に症状マネジメントや退院調整等に関わっている。

【考察】看護師が患者・家族に継続的に関わる支援は、治療や療養場所を移行する患者・家族が、経過を理解している看護師にいつ何処でも相談できる安心や、セルフケアにも効果をもたらしていると考えられる。今後はカンファレンスやサマリーを有効に活用し、頭頸部がん患者・家族の継続的なケアに努めていきたい。